

市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

パーカッション奏者

のじり さやか
野尻 小矢佳さん

第23回日本打楽器新人演奏会グランプリをはじめ第1回岩城賞など数々の賞を受賞し、現在、個人リサイタルやパーカッションバンドでのライブなども積極的に行っている野尻小矢佳さんを岡村市長が訪問。打楽器演奏の魅力などをお聞きしました。



市長 みなさんこんにちは。早いもので今年も半年が過ぎました。いよいよ7月に入り、暑い夏がやってきます。

今月の市長のふれあい訪問は、パーカッション奏者の野尻小矢佳さんです。どうぞよろしくお願いたします。はじめにお聞きしますが、打楽器はいつから始めたのですか。

野尻 4歳のとき、幼稚園で卓上木琴を使った遊戯で大きなマリimbaを弾いていた先生に憧れて、マリimbaを始めました。

市長 パーカッション奏者を目指そうと思ったのはいつですか。

野尻 小学校に入ってから、趣味で打楽器演奏を続けていきましたが、大学に進学するときに、やっぱり音楽の道に進みたいという気持ちが強くなり、音楽大学を目指すため、本格的に打楽器全般の勉強をするようになりました。

市長 パーカッション、いわゆる打楽器の魅力は何でしょう。

野尻 美術館で絵を観る感覚と



野尻 ほかの楽器と違い、叩くだけで音が出てしまうのが打楽器です。会場に響く音色の調整や音質には神経を使います。ピアノと同じように、打楽器

同じように、一言で言えば、「観て・感じる」ことができるのが打楽器の魅力です。また、音の空間、その空間から飛んでくる音を一緒に体感できるのも打楽器の魅力だと思っています。

市長 打楽器というと、ドラムなどのように、バンドの一部というイメージがあります。しかし、野尻さんは、打楽器のみで演奏会を行っています。何か苦労はありますか。

野尻 ほかの楽器と違い、叩くだけで音が出てしまうのが打楽器です。会場に響く音色の調整や音質には神経を使います。ピアノと同じように、打楽器

もソロ楽器として成り立つのだと、分かってもらえるように頑張っています。

市長 鋳物やフライパンを楽器にして演奏していますよね。

野尻 鋳物工場でライブを行ったときに初めて楽器にしました。地元でお世話になった方への恩返しと感謝の気持ちを伝えられるのは、地元の鋳物を楽器にすることなのかと考え、取り入れました。

市長 鋳物も楽器になるというのは、川口市民としてうれしい思いがします。

これまでに、いろいろな賞を受賞されていますが、新人の演奏家のなかでは、群を抜いていますよね。

野尻 活動の場を広げるきっかけになればと、いろいろなコンクールに出場しました。多くの賞をいただけたことは、大変名誉で光栄なことと思っています。

市長 ソロ活動だけではなく、パーカッションバンドを結成したと聞いていますか。

野尻 はい。「BAAO (バーオ)」という名前のバンドを4人で結成しました。スチール

パンやマリimba、太鼓などパーカッションのみで演奏を行うバンドです。観客のみなさんに楽しんでいただけるステージにしたいと思っています。

市長 従来とは違う、新たな演奏会の始まりという感じがします。最後に、これからの活動予定などをお聞かせください。

野尻 8月31日にBAAOライブ、12月20日にソロリサイタルをリリアで行いますので、ぜひお越しください。みなさんに応援していただけるよう、頑張りますので、よろしくお願いたします。

市長 野尻さんは笑顔がとても素敵ですね。その笑顔を見せたいですね。その笑顔を見せたいですね。その笑顔を見せたいですね。

これからの活躍を期待しています。今日はありがとうございました。

